

会議録

会議の名称	第2回西東京市学校施設適正規模・適正配置等検討懇談会
開催日時	令和7年11月26日(水曜日)午前10時から
開催場所	田無第二庁舎4階会議室
出席者	<p>【委員】藤江座長、中嶋副座長、加藤委員、松永委員、鈴木委員、長谷川委員、真鍋委員、小田委員、山本委員、佐々木委員、辻委員、大久保委員 欠席：高木委員</p> <p>【事務局】飯島副参与兼教育企画課長、中屋教育企画課企画調整係主査、浅水教育企画課企画調整係主任、関澤教育企画課企画調整係主任、木藤教育企画課企画調整係主事</p> <p>【傍聴人】3人</p>
議題	<p>議題1 会議録について</p> <p>議題2 学校施設の適正規模・適正配置について</p> <p>議題3 学校施設の適正規模について</p> <p>議題4 学校施設の適正規模に関するアンケートについて</p> <p>議題5 その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 学校施設の適正規模・適正配置について</p> <p>資料1別紙 西東京市の学校数等の現状</p> <p>資料2 学校施設の適正規模の基準について</p> <p>資料3 学校施設の適正規模に関するアンケート(案)について</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><開会></p> <p>議題1 会議録について 第1回会議の会議録内容について、承認。</p> <p>議題2 学校施設の適正規模・適正配置について ○事務局 (資料1、資料1別紙について説明)</p> <p>○座長 ご質問等があれば、伺う。</p> <p>○座長 西東京市の小学校1校当たりが占める市の面積(市の面積／小学校数)は、26市の中で最も小さいということか。</p> <p>○事務局 西東京市では、単位面積当たりの小学校数が26市平均よりも多くなっている。</p>	

○委員

本懇談会は将来の話をしていくものと認識している。その場合、将来の人口推移が重要になると考える。人口推移に関する資料は準備しているか。それらの資料を加味しながら議論をする必要があるのではないか。

○事務局

市全体の人口の推移、小・中学校に通うお子様の推移、特別支援学級に通うお子様の推移については、皆さまにお示ししていく予定である。

○委員

市の人口に対する学校数の指標ではどうなるか。

○事務局

人口に対しての学校数についても、本懇談会の検討段階でお示ししていく予定である。

議題3 学校施設の適正規模について

議題4 学校施設の適正規模に関するアンケートについて

○事務局（教育企画課）

（資料2、資料3について説明）

○座長

ご質問等があれば、伺う。

○副座長

資料2において、標準規模未満の学校として田無第三中学校と柳沢中学校が挙げられているのはなぜか。また、「学校運営への影響は以下のとおり想定されます」とあるが、どのようにしてこの内容を作り上げたのか教えていただきたい。資料3の教員対象アンケートの項目(8)で「体育科の球技や音楽家の合唱～」とあるが、ゲストティーチャーの「音楽家」のことか、「音楽科」の誤記か。

○事務局

学級数の規模を1校当たり9学級とした基準は西東京市の基準であり、国が定める基準では1校当たり12学級未満の学校を標準規模未満とされている。国の基準に当てはめた場合、田無第三中学校と柳沢中学校が標準規模未満に該当するため、資料2に標準規模未満の学校として記載させていただいた。

2点目の「学級数が少なくなることによる影響」の項目については国の資料などを参考に本市で作成したものである。

3点目については、正式な表記について、確認をさせていただく。

○委員

田無第三中学校の学級数について、現在1クラス38～39人としているため、11学級となっている。他の学校で、35人学級をやっていれば学級数が増えることになるため、1学級あたりの人数を統一した上で検討をしていった方が良いと思われる。

○事務局

今回は、現状の学級数を提示させていただいたところである。35 人学級とした場合の学級数についても作成し、次回会議でお示ししていきたいと考える。

○委員

教員対象のアンケートにおける項目「学級数が多くなることによる影響」の中で、学級数ではなくクラスサイズが影響すると思われる内容がある。そのため、アンケート項目に「担任をしている学級の人数」に関する項目があっても良いと感じた。

○事務局

いただいたご意見を踏まえて、アンケートの内容について検討をしていく。

○委員

中学校の 35 人学級編成への段階的な導入において、どのくらいの期間をかけて導入していく想定であるか。

また、学級数が適正になることによる教育改善とは具体的にどのようなものか。メリットについてお示しいただきたい。

現在、教員が不足している状況を踏まえ、適正規模化の実現性についてどのように考えているか。

適正規模・適正配置が実現した場合にどのようなシナリオを思い描いているか。例えば、学童の受け入れは対応できるかなども検討しているか。

○事務局

35 人学級の進め方については、令和 8 年度に中学 1 年生を 35 人学級とし、令和 9 年度令和 10 年度と段階的に 35 人学級を進めていく予定である。

適正規模・適正配置を実現することで、多角的な検討を行うことができるとともに西東京市として理想的な配置や将来像の検討が可能となる。学校選択制や小中一貫教育の取り組み、多様な学習環境の実現をすることができるかの検討が可能になる。また、学校を拠点とした地域コミュニティの形成にも資するものだと考える。それ以外にも、変化する教育環境への対応、地域との連携・協働、小中一貫校の検討にも資するものだと考える。

教員不足については、適正規模・適正配置を検討すると同時に、教員の働き方改革の視点も取り入れつつ、教員と子どもの関わりも考慮しながら対応を検討していく必要があると考える。

学童は学校の中に設置していくことが、公共施設等総合管理計画に記載されている。適正規模の検討を進めることで、1 つの学校の適正な学級数の把握とともに、空き教室となる部屋についても把握することができるようになると考える。学童を所管する児童青少年課とも情報共有しながら、タイムシェアなどの対応をしているところである。適正規模の検討と併せて、学童クラブの設置、タイムシェア、放課後子供教室の連携についても進めていけるのではないかと考えている。

○委員

児童生徒対象アンケートについて、適正な学級数を聞いても判断できないのではないか。アンケート配布の際は資料 2 が添付されることになると考えている。その上

で、保護者対象アンケートの(4)で「クラスサイズが小さくなる～」とあるが、保護者ではイメージできないと思われるため、「1学級の人数が具体的な数字で何人以下になったら」といった表記とした方が回答しやすくなると感じた。教員用アンケートの(3)「学校全体の学級数をどう感じるか」については漠然とした質問である印象を受けた。学校全体の学級数といつても、学校の面積に対してなのか、生徒数に対してなのかを明確にすることで回答がしやすくなると感じた。

○事務局

アンケートの設問については、対象となる方に対してわかりやすい表現となるよう修正していく。また、児童・生徒に対するアンケートの設問の表現については工夫していく。

○委員

アンケートの対象は全児童・生徒、全保護者であるか。

○事務局

現在はその想定である。

○副座長

アンケートの対象として小学1～3年生は難しいと考える。小学生を対象とする場合は、対象を絞らないとアンケート実施の際に教員が困ることになる。対象とする学年については、改めて検討いただきたい。

適正な学級数の設問について、回答する学級数を1つに絞るのは難しいと考える。1つに絞ることが難しい項目については、複数回答を可能とするなど回答の幅を持たせた方が良い。

基本的に部活動は小学校になく、文化祭も小学校にはなじみのない学校文化である。教員・保護者のアンケートでは、小学校と中学校で問い合わせを分けて作成した方が良いと考える。

○事務局

いただいたご意見を参考にしながら、アンケートの内容をブラッシュアップしていく。

○委員

アンケートを実施する場合は、アンケートの目的を明確にした上で実施していただきたい。そこが不十分であると、子どもたちに対して教員が説明をしたときに困ってしまうことが予想される。教員が説明をしなくとも子どもたちがアンケートに回答できるようになることが理想と考える。

子どもたちの意見を聞くことは西東京市の大変なスタンスと理解しているが、学校には非常に多くのアンケートが届いている状況である。アンケートを実施する場合には、学校側の事情も考慮していただきたい。

○事務局

アンケートの対応については、先生方の負担や学校生活の妨げにならない方法を考

えていきたいと思う。

○委員

アンケートの回答項目は決まったものだけではなく、自由記述で意見を述べられるようにした方が良いと考える。また、このアンケートの1票は小規模校と大規模校で、1票の重みは同じとして扱われることになるのか。回答率が低い学校の声の扱いや、学校ごとの回答率の偏りはどのように扱う予定なのか教えていただきたい。

○事務局

自由記述欄については、アンケートに組み込んでいきたいと考える。アンケートの回答率や小規模校・大規模校の1票の重みについては分析しながら対応していきたい。

○座長

アンケートを行う手段としてLogoフォームとあるが、紙でのアンケートではなく端末からアクセスして回答する方式をとるということか。

○事務局

西東京市では1人1台端末の方針で、子どもたちに1台ずつ端末を持たせており、その端末から回答いただくことを考えている。

○座長

アンケート対象が3者（教員・保護者・児童生徒）となっているが、必ずしも全員が市民ではない教員と、全員が市民である保護者や児童・生徒とでは、この施策によって受ける影響が変わってくると思われる。教員はどちらかといえば専門家としての意見をうかがうという意味もあるため、質問の内容は切り分けて調査をしても良いと感じた。また、「適正」といった言葉は、別の表現にした方が回答しやすくなると考える。

○事務局

いただいたご意見を踏まえ、アンケートの内容、アンケートの取り方等を検討していきたい。

議題5 その他

○事務局

次回会議は12月22日（月）を予定しており、詳細については後日連絡をさせていただく。また、本日の議事要旨は、後日メールで送付させていただき、委員確認後の第3回会議で了承を得て公開とさせていただく。

<閉会>